

第21回

品川区世論調査 あ ら ま し

この小冊子は、2014（平成26）年に実施した「第21回世論調査」の要約版です。今回は、経年変化をみる定住性や重点施策などの項目に加え、オリンピック・パラリンピック、防災、地域活動への参加、健康などの項目についてもたずねました。調査の結果は、今後の区政運営にあたり貴重な資料として活用してまいりたいと考えております。

ご協力いただきました区民の皆様には心より御礼を申し上げますとともに、調査結果の概要をお知らせいたします。

調査の内容

- 1 定住性について
- 2 生活環境について
- 3 オリンピック・パラリンピックについて
- 4 防災について
- 5 地域活動への参加について
- 6 介護保険について
- 7 認知症について
- 8 健康について
- 9 環境について
- 10 みどりについて
- 11 広報と情報化について
- 12 シティプロモーションについて
- 13 読書と図書館利用について
- 14 重点施策について

調査概要

- 調査対象：品川区在住の満20歳以上の男女個人
（平成26年6月1日現在）
- 抽出方法：層化2段無作為抽出法
- 対象者数：1,500人
- 調査方法：調査員による個別面接聴取法
- 回収数：1,071人
- 回収率：71.4%
- 調査期間：平成26年6月28日～7月13日
- 調査機関：株式会社 エスピー研

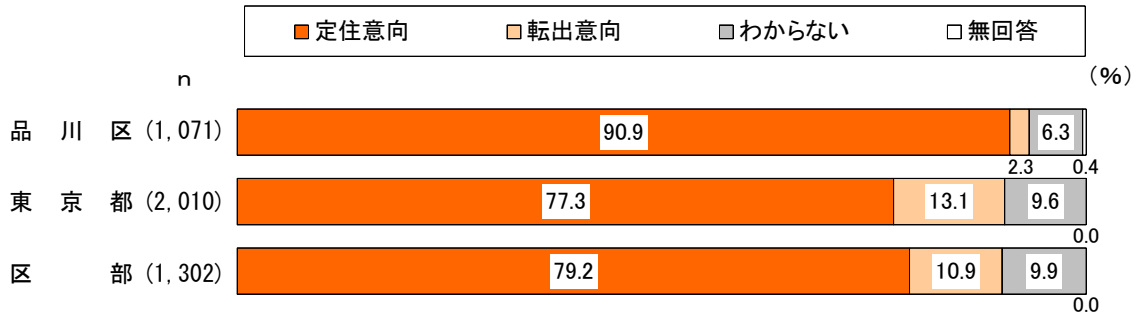
この要約版は、世論調査の結果を抜粋し、わかりやすくまとめたものです。詳しい調査結果は、第21回世論調査として区公式ホームページと、区政資料コーナー（第三庁舎3階）または、図書館で閲覧することができます。

1 定住性について

■ 定住意向 区民の定住意向は高い

定住意向をたずねたところ、これからも引き続き品川区に「ずっと住みたい」(53.5%)と「当分は住みたい」(37.4%)を合わせると90.9%で、定住意向は高くなっています。

また、東京都、区部との比較でみると、東京都より13.6ポイント、区部より11.7ポイント高くなっています。



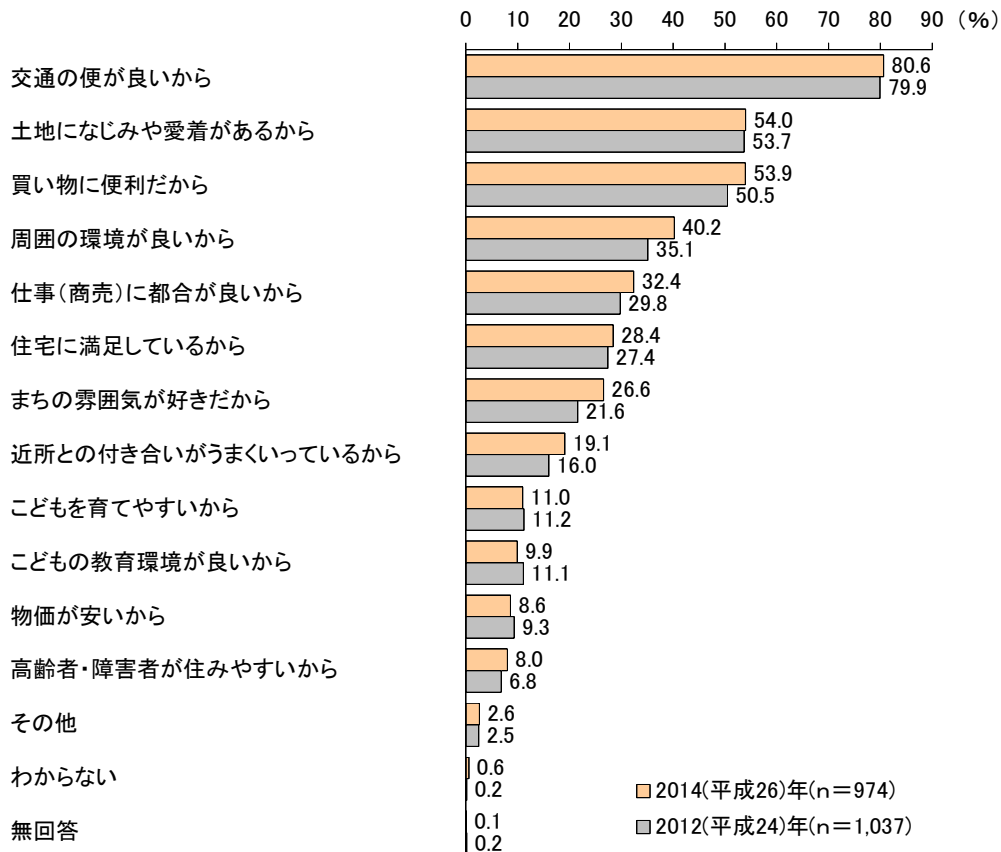
※注意点

東京都と区部は地域定住意向の調査結果

資料出所：東京都生活文化局「都民生活に関する世論調査」(平成25年)

■ 定住意向理由 交通の便が良いという理由が上位

品川区に「ずっと住みたい」「当分は住みたい」という理由は、「交通の便が良いから」が80.6%と最も高く、次いで「土地になじみや愛着があるから」(54.0%)、「買い物に便利だから」(53.9%)などの順となっており、交通や買い物の便の良さが大きな理由となっています。

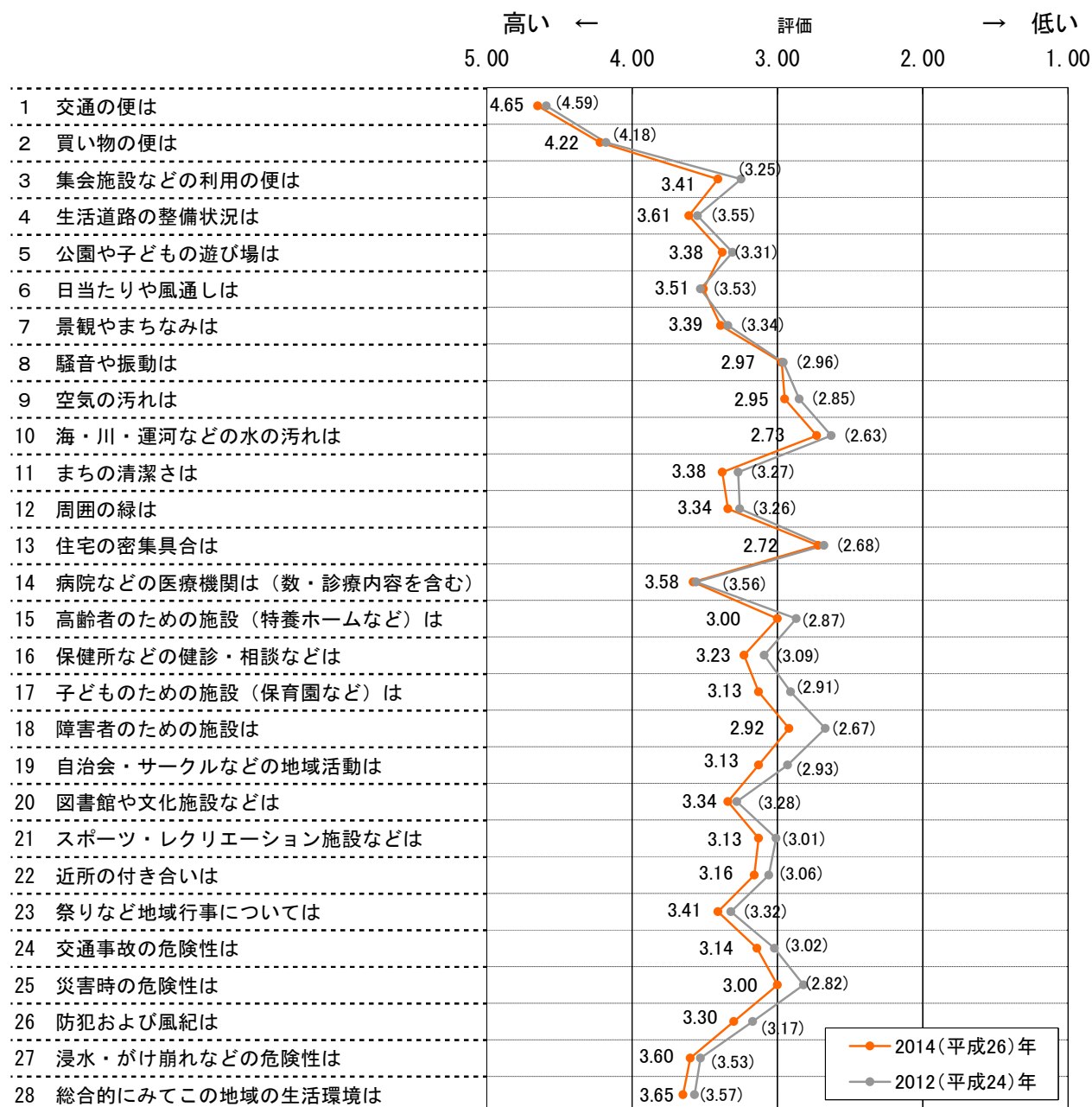


2 生活環境について

■ 生活環境についての評価

交通や買い物の便での評価が高く、環境面での評価が低い

生活環境を評価点でみると、「交通の便」や「買い物の便」での評価が高く、「住宅の密集具合」や「海・川・運河などの水の汚れ」といった環境面での評価が低くなっています。



評価点 = (「良い」の回答者数 × 5点 + 「やや良い」の回答者数 × 4点 + 「普通」の回答者数 × 3点 + 「やや悪い」の回答者数 × 2点 + 「悪い」の回答者数 × 1点) ÷ 回答者数

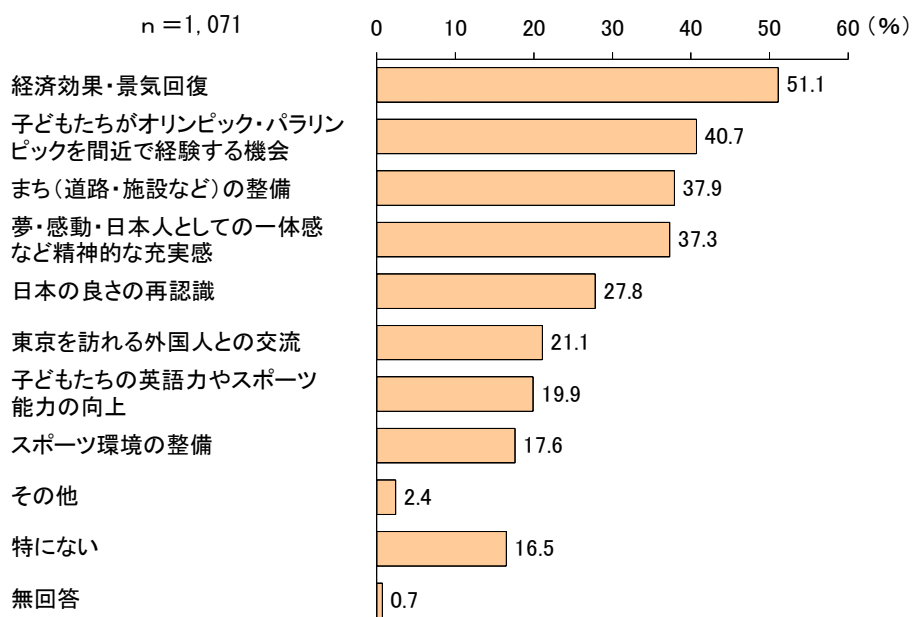
図中、かっこのない値は2014(平成26)年の評価点を、かっこ付きの値は2012(平成24)年の評価点を示します。

3 オリンピック・パラリンピックについて

東京オリンピック・パラリンピックに期待すること

「経済効果・景気回復」が5割を超える

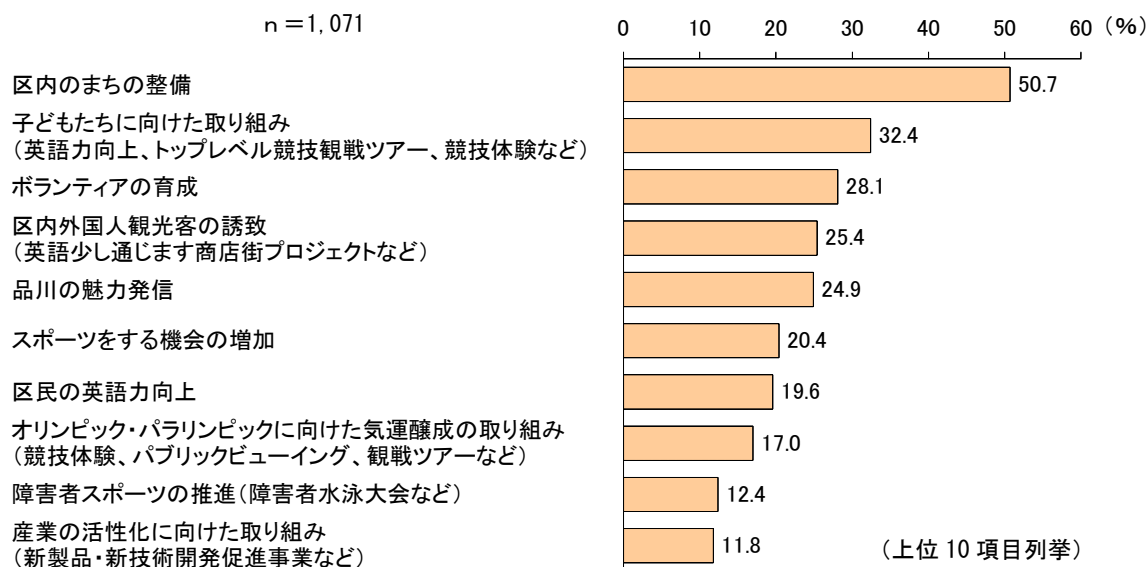
東京オリンピック・パラリンピックに期待することをたずねたところ、「経済効果・景気回復」が51.1%と最も高く、次いで「子どもたちがオリンピック・パラリンピックを間近で経験する機会」(40.7%)、「まち(道路・施設など)の整備」(37.9%)などの順となっています。



2020年に向けて必要なこと

「区内のまちの整備」がほぼ5割

2020年に向けて必要なことをたずねたところ、「区内のまちの整備」が50.7%と最も高く、次いで「子どもたちに向けた取り組み(英語力向上、トップレベル競技観戦ツアー、競技体験など)」(32.4%)、「ボランティアの育成」(28.1%)などの順となっています。

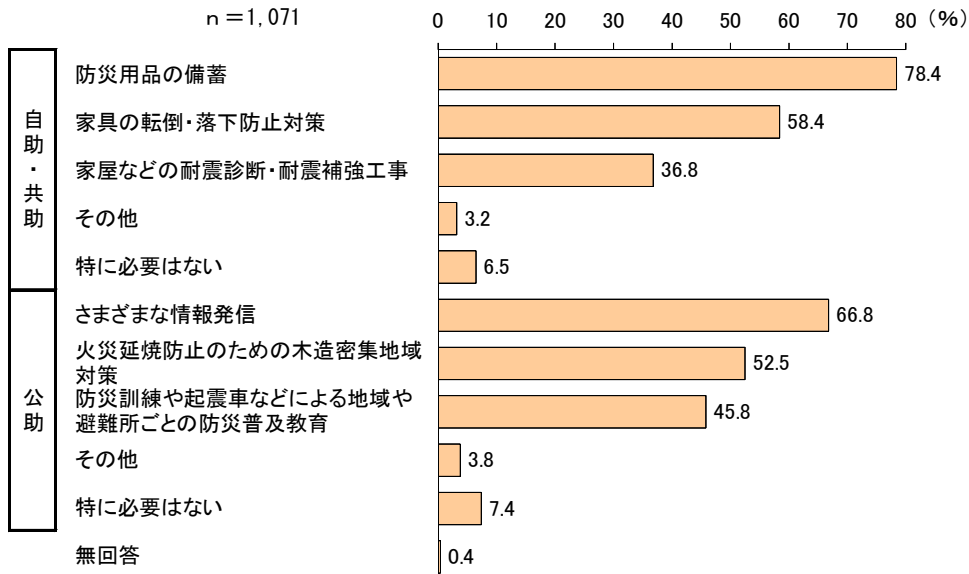


4 防災について

■ 今後充実すべき防災対策

「防災用品の備蓄」、「さまざまな情報発信」がそれぞれで高い

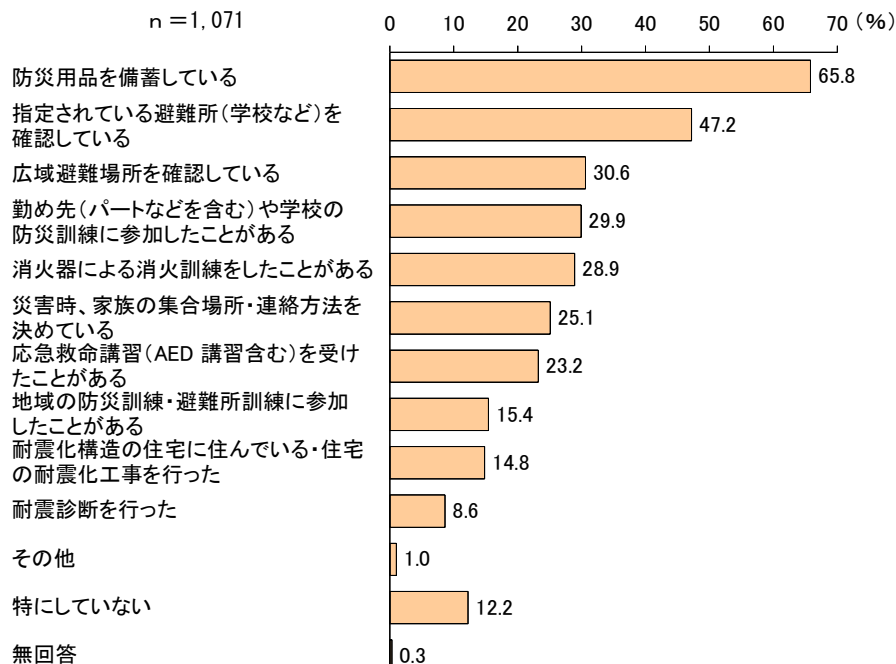
今後充実すべき防災対策についてたずねたところ、＜自助・共助＞では「防災用品の備蓄」が78.4%と最も高く、次いで「家具の転倒・落下防止対策」(58.4%)などの順となっています。＜公助＞では「さまざまな情報発信」が66.8%と最も高く、次いで「火災延焼防止のための木造密集地域対策」(52.5%)などの順となっています。



■ 防災に関して既に行っていること

「防災用品を備蓄している」が6割半ば

防災に関して既に行っていることをたずねたところ、「防災用品を備蓄している」が65.8%と最も高く、次いで「指定されている避難所(学校など)を確認している」(47.2%)、「広域避難場所を確認している」(30.6%)などの順となっています。

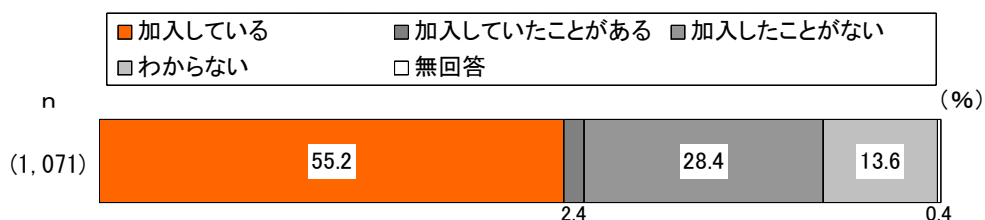


5 地域活動への参加について

■ 町会・自治会の加入状況

「加入している」が5割半ば

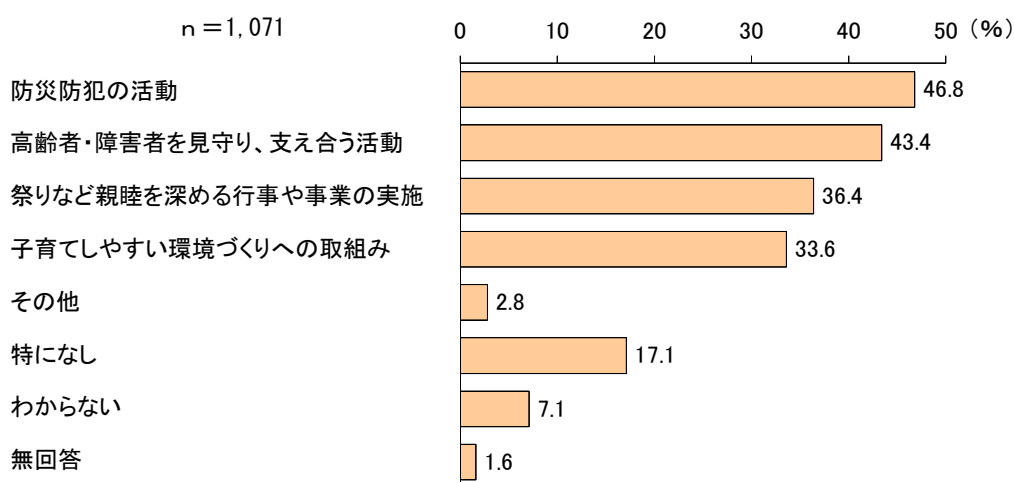
町会・自治会の加入状況をたずねたところ、「加入している」が55.2%となっています。一方、「加入していたことがある」(2.4%)と「加入したことがない」(28.4%)を合わせた『加入していない』は30.8%となっています。



■ 町会・自治会に期待すること

「防災防犯の活動」が5割近く

町会・自治会に期待することをたずねたところ、「防災防犯の活動」が46.8%と最も高く、次いで「高齢者・障害者を見守り、支え合う活動」(43.4%)、「祭りなど親睦を深める行事や事業の実施」(36.4%)などの順となっています。

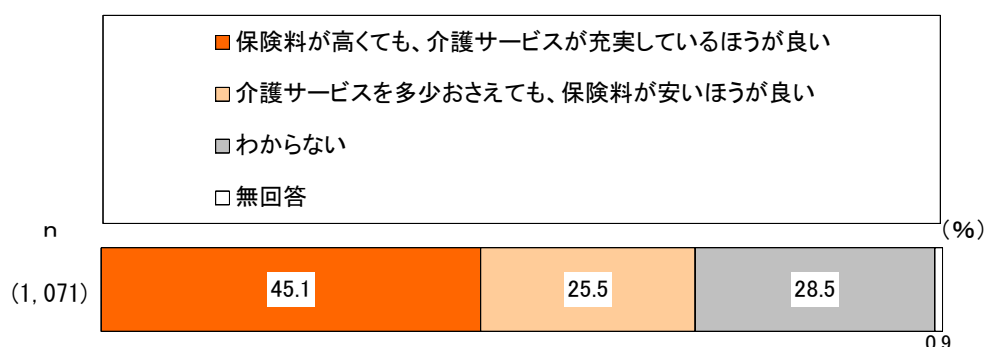


6 介護保険について

■ 介護保険料についての意見

「保険料が高くても、介護サービスが充実しているほうが良い」が4割半ば

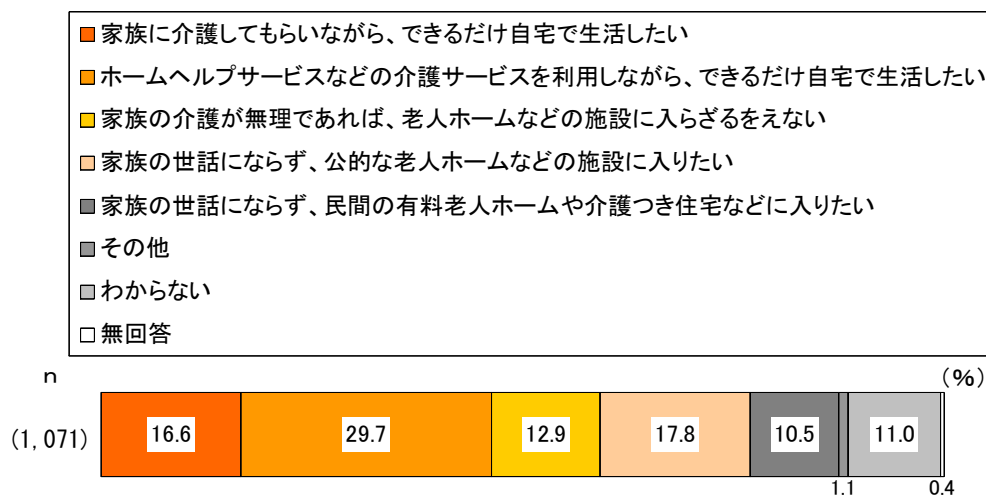
介護保険料についての意見をたずねたところ、「保険料が高くても、介護サービスが充実しているほうが良い」が45.1%、「介護サービスを多少おさえても、保険料が安いほうが良い」は25.5%となっています。また、「わからない」は28.5%となっています。



■ 希望する介護形態

「ホームヘルプサービスなどの介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で生活したい」が3割

希望する介護形態についてたずねたところ、「ホームヘルプサービスなどの介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で生活したい」が29.7%と最も高く、次いで「家族の世話にならず、公的な老人ホームなどの施設に入りたい」(17.8%)、「家族に介護してもらいながら、できるだけ自宅で生活したい」(16.6%)などの順となっています。

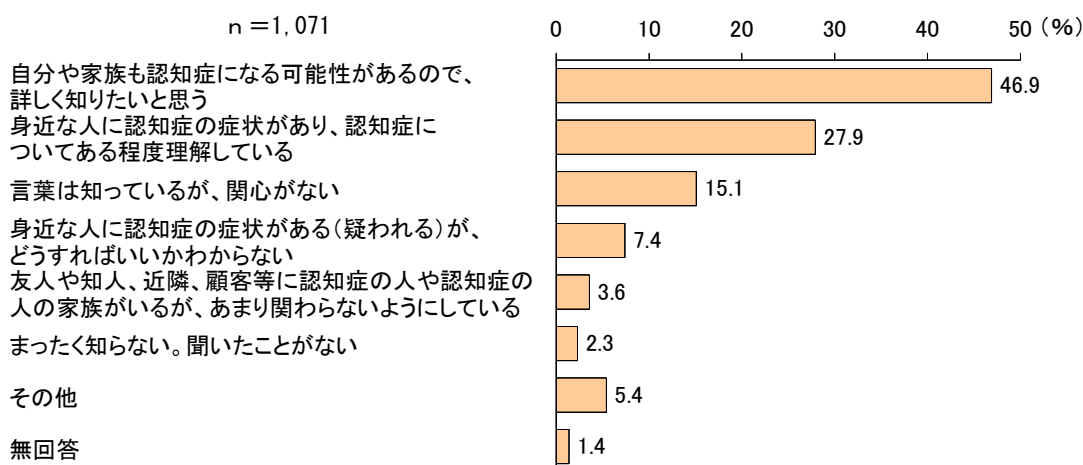


7 認知症について

■ 認知症についての考え

「自分や家族も認知症になる可能性があるので、詳しく知りたいと思う」が5割近く

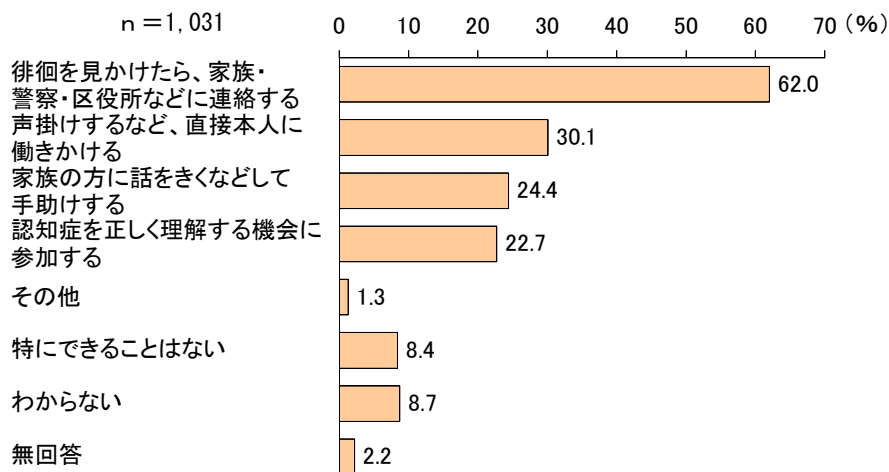
認知症についての考えについてたずねたところ、「自分や家族も認知症になる可能性があるので、詳しく知りたいと思う」が46.9%と最も高く、次いで「身近な人に認知症の症状があり、認知症についてある程度理解している」(27.9%)、「言葉は知っているが、関心がない」(15.1%)などの順となっています。



■ 認知症患者に支援できること

「徘徊を見かけたら、家族・警察・区役所などに連絡する」が6割を超える

認知症患者に支援できることをたずねたところ、「徘徊を見かけたら、家族・警察・区役所などに連絡する」が62.0%と最も高く、次いで「声掛けするなど、直接本人に働きかける」(30.1%)、「家族の方に話をきくなどして手助けする」(24.4%)などの順となっています。

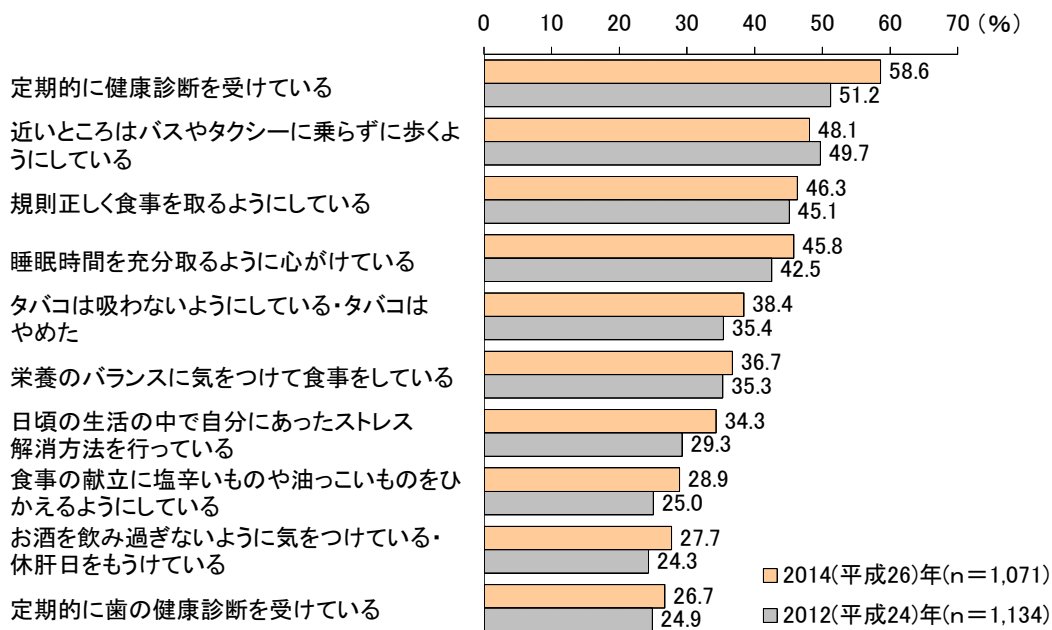


8 健康について

■ 健康のために日ごろから行っていること

「定期的に健康診断を受けている」が6割近く

健康のために日ごろから行っていることをたずねたところ、「定期的に健康診断を受けている」が58.6%と最も高く、次いで「近いところはバスやタクシーに乗らずに歩くようにしている」(48.1%)、「規則正しく食事を取るようになっている」(46.3%)などの順となっています。

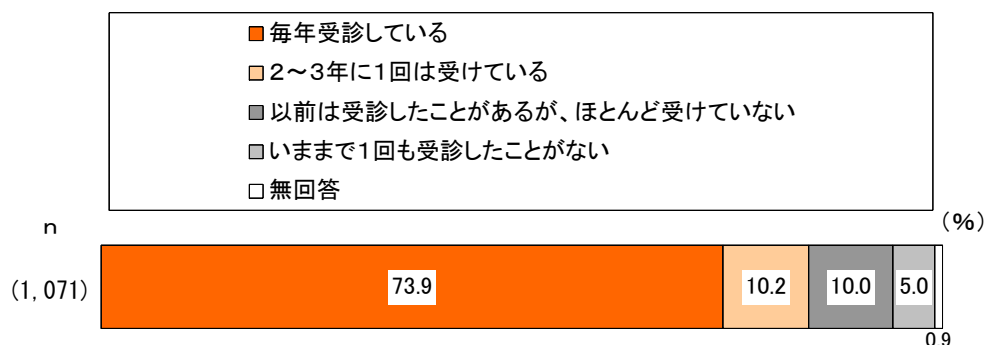


(上位10項目列挙)

■ 健康診断の受診率

『受診している』が8割半ば

健康診断の受診率をたずねたところ、「毎年受診している」が73.9%と最も高く、これに「2～3年に1回は受けている」(10.2%)を合わせた『受診している』は84.1%となっています。一方、「以前は受診したことがあるが、ほとんど受けていない」(10.0%)と「いままで1回も受診したことがない」(5.0%)を合わせた『受診していない』は15.0%となっています。



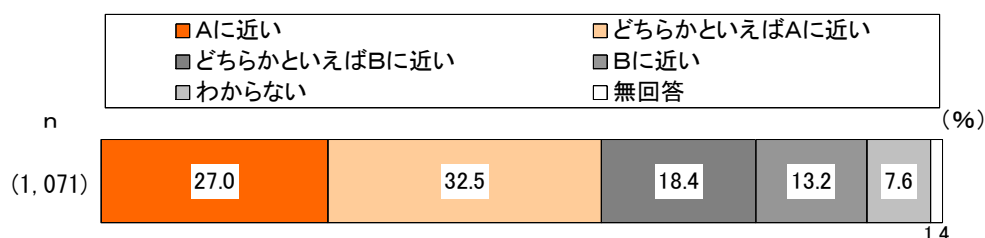
9 環境について

■ 環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度

「経済コストがかかっても、地球環境に負荷（負担）の少ない生活スタイル」を選ぶ人が6割

環境保全と経済の発展や生活の利便さの優先度をたずねたところ、「どちらかといえばAに近い」が32.5%と最も高く、これに「Aに近い」(27.0%)を合わせた『Aに近い』は59.5%となっています。一方、「どちらかといえばBに近い」(18.4%)と「Bに近い」(13.2%)を合わせた『Bに近い』は31.6%となっています。

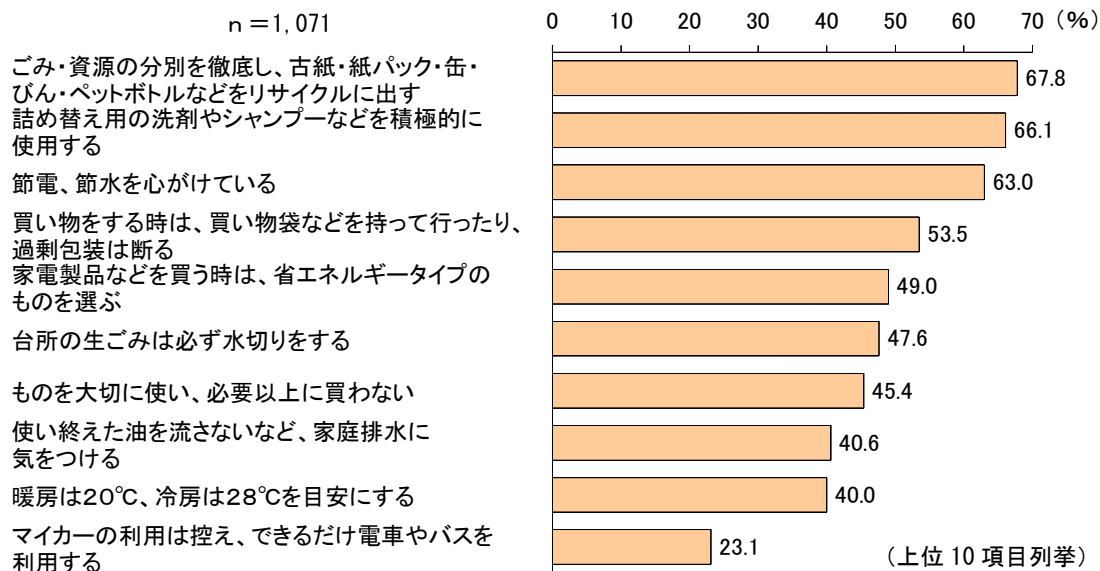
- A 経済コストがかかっても、地球環境に負荷（負担）の少ない生活スタイルを選ぶ
- B 地球環境の大切さはわかるが、便利さ・安さを優先させる



■ 環境を守るために日常生活で心がけていること

『ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す』が7割近く

環境を守るために日常生活で心がけていることをたずねたところ、「ごみ・資源の分別を徹底し、古紙・紙パック・缶・びん・ペットボトルなどをリサイクルに出す」が67.8%と最も高く、次いで「詰め替え用の洗剤やシャンプーなどを積極的に使用する」(66.1%)、「節電、節水を心がけている」(63.0%)となっています。

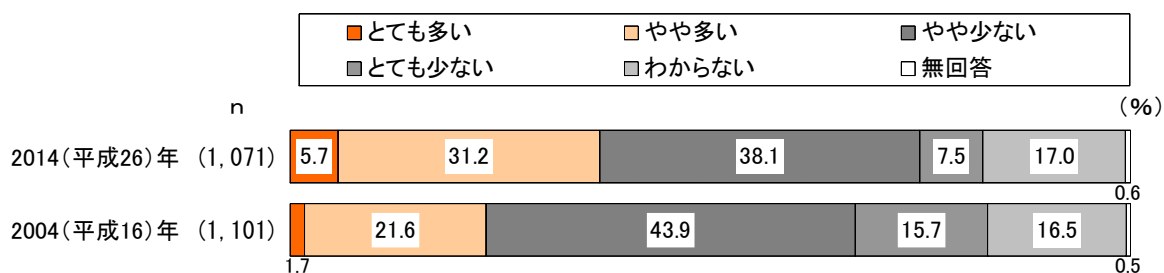


10 みどりについて

■ 品川区の緑について

『多い』が4割近く

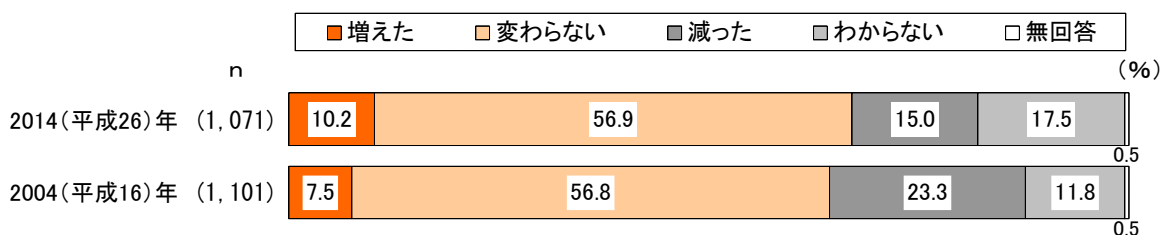
品川区の緑についてたずねたところ、「とても多い」(5.7%)と「やや多い」(31.2%)を合わせた『多い』は36.9%となっています。一方、「やや少ない」(38.1%)と「とても少ない」(7.5%)を合わせた『少ない』は45.6%となっています。



■ 住居周辺の緑の変化

「変わらない」が6割近く

住居周辺の緑の変化についてたずねたところ、「増えた」が10.2%、「変わらない」は56.9%、「減った」は15.0%となっています。

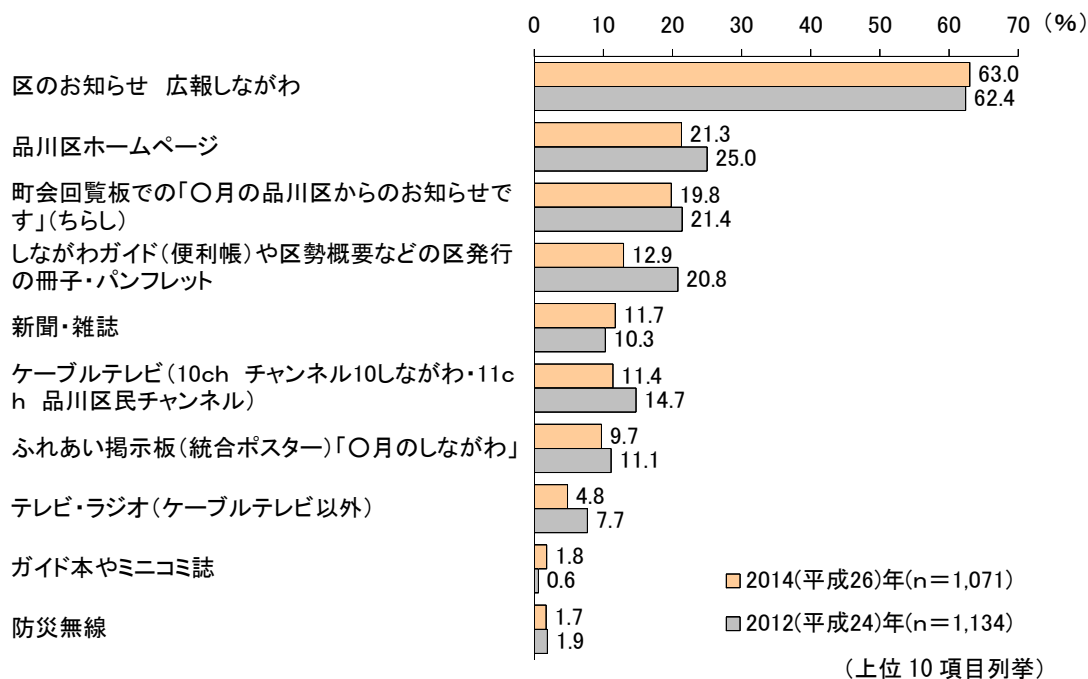


11 広報と情報化について

■ 区に関する情報の入手先

「区のお知らせ 広報しながわ」が6割を超える

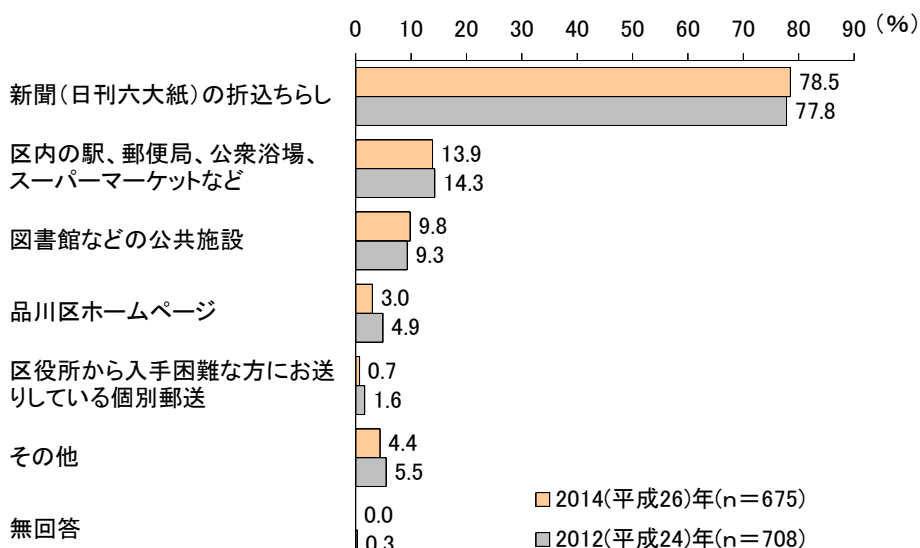
区に関する情報の入手先をたずねたところ、「区のお知らせ 広報しながわ」が63.0%と最も高く、次いで「品川区ホームページ」(21.3%)、「町会回覧板での『〇月の品川区からのお知らせです』(ちらし)」(19.8%)などの順となっています。



■ 「広報しながわ」の入手先

「新聞(日刊六大紙)の折込ちらし」が8割近く

「広報しながわ」の入手先をたずねたところ、「新聞(日刊六大紙)の折込ちらし」が78.5%と最も高く、次いで「区内の駅、郵便局、公衆浴場、スーパーマーケットなど」(13.9%)、「図書館などの公共施設」(9.8%)などの順となっています。

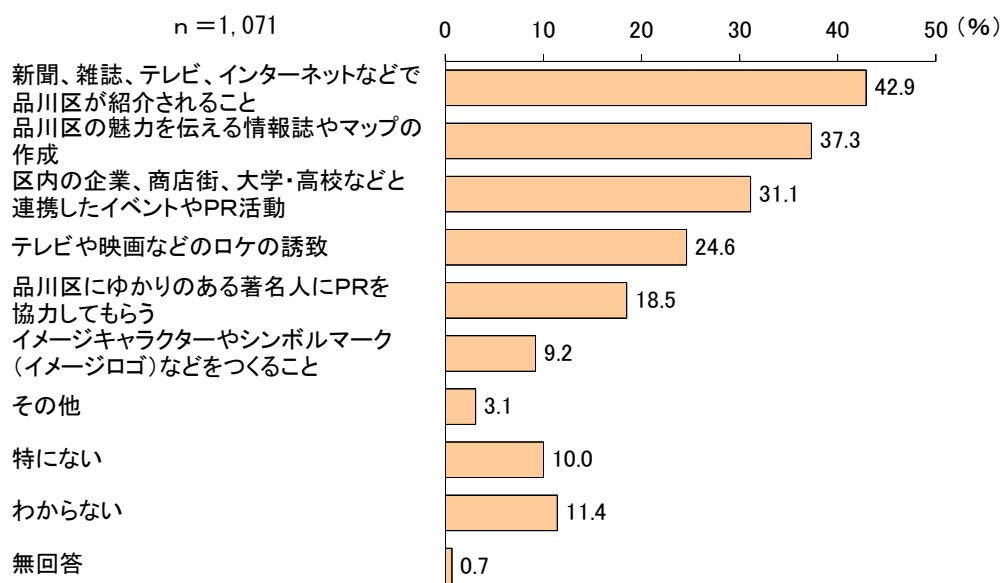


12 シティプロモーションについて

■ 品川区の魅力や地域イメージを伝えるための効果的な取り組み

「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどで品川区が紹介されること」が4割を超える

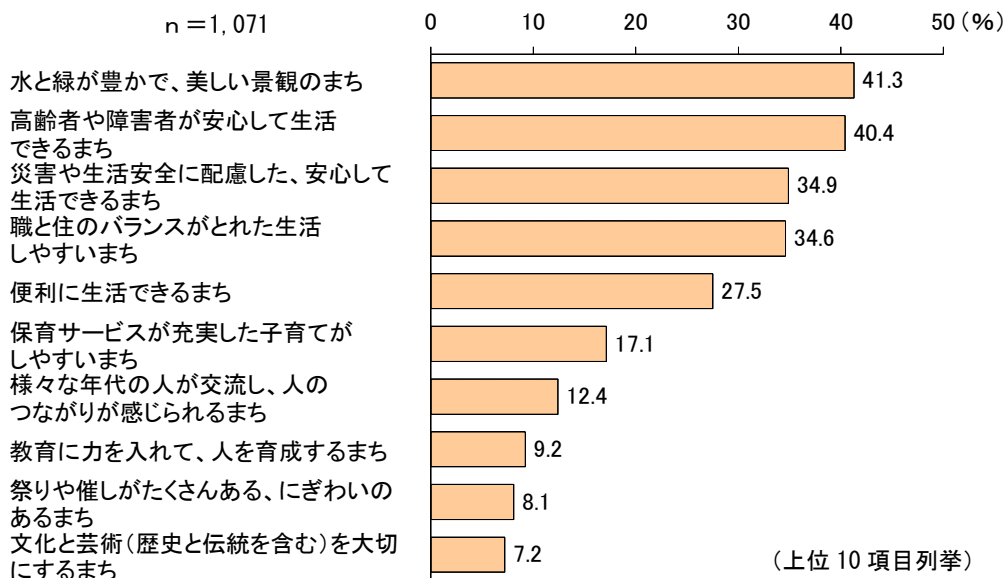
品川区の魅力や地域イメージを伝えるための効果的な取り組みについてたずねたところ、「新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどで品川区が紹介されること」が42.9%と最も高く、次いで「品川区の魅力や地域イメージを伝える情報誌やマップの作成」(37.3%)、「区内の企業、商店街、大学・高校などと連携したイベントやPR活動」(31.1%)などの順となっています。



■ 品川区の将来像

「水と緑が豊かで、美しい景観のまち」が4割を超える

品川区の将来像についてたずねたところ、「水と緑が豊かで、美しい景観のまち」が41.3%と最も高く、次いで「高齢者や障害者が安心して生活できるまち」(40.4%)、「災害や生活安全に配慮した、安心して生活できるまち」(34.9%)などの順となっています。



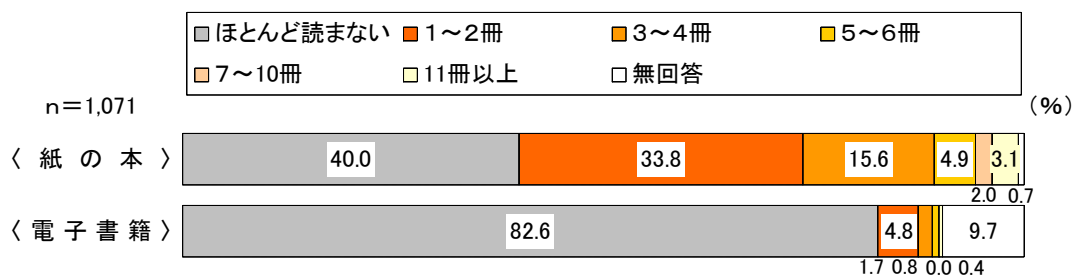
13 読書と図書館利用について

1 カ月の読書量

〈紙の本〉では「ほとんど読まない」が4割、「1～2冊」が3割を超える
 〈電子書籍〉では「ほとんど読まない」が8割を超える

1カ月の読書量をたずねたところ、〈紙の本〉では「ほとんど読まない」が40.0%となっています。「1～2冊」は33.8%、「3～4冊」は15.6%となっています。

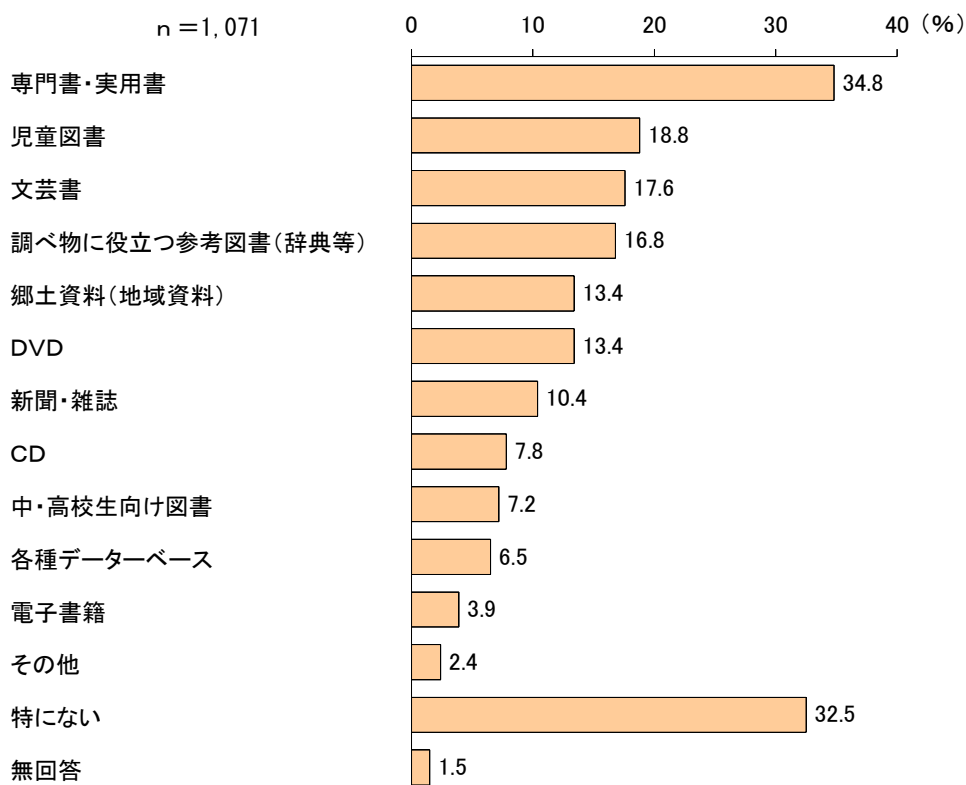
〈電子書籍〉では「ほとんど読まない」が82.6%となっています。「1～2冊」(4.8%)、「3～4冊」(1.7%)、「5～6冊」(0.8%)、「11冊以上」(0.0%)、「1冊以上」(0.4%)はいずれもわずかとなっています。



区立図書館に望む所蔵資料

「専門書・実用書」が3割半ば

区立図書館に望む所蔵資料についてたずねたところ、「専門書・実用書」が34.8%と最も高く、次いで「児童図書」(18.8%)、「文芸書」(17.6%)などの順となっています。一方、「特にない」は32.5%となっています。

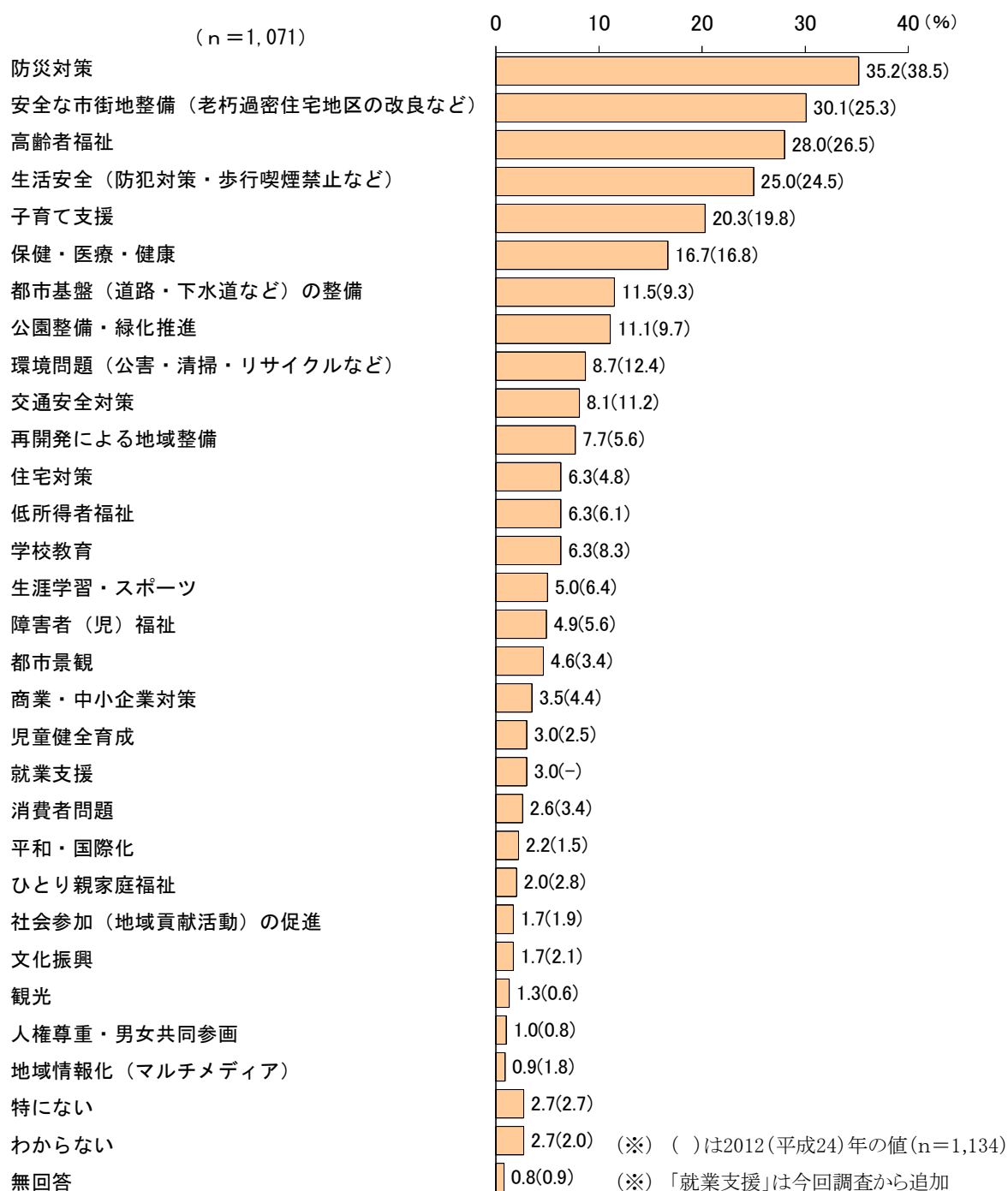


14 重点施策について

■ 今後特に力を入れてほしい施策

「防災対策」、「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良など）」、「高齢者福祉」が上位3項目

区の施策の中で、今後特に力を入れてほしい施策は、「防災対策」が35.2%と最も高く、次いで「安全な市街地整備（老朽過密住宅地区の改良など）」（30.1%）、「高齢者福祉」（28.0%）、「生活安全（防犯対策・歩行喫煙禁止など）」（25.0%）、「子育て支援」（20.3%）などの順となっています。



第21回品川区世論調査 要約版

2014（平成26）年11月

発行 品川区企画部広報広聴課

品川区広町2-1-36

03（3771）2000（直通）

実施 株式会社エスピー研 調査事業部

東京都千代田区飯田橋3-11-20

03（3239）0071（代表）

古紙を配合した紙を使用しています